

パネルディスカッション進行方法（案）

- 1 古賀市の現状と課題を紹介して導入提起し、今日の趣旨を確認する。(①)
- 2 パネリスト発言と進行役の討議（質疑等のやり取り）を繰り返す。(②③)
- 3 フロアからの質問等にパネリストが答え、参加者と交流する。(④)
- 4 フロア交流の結果を含め、パネリストは今後に向けての考えをまとめる。(⑤)
- 5 最後に、進行がディスカッションを総括する。(⑥)

タイムスケジュール及びパネルディスカッション時間配分（案）

●パネリスト3名

- 10:00～10:05 オープニング映像（笑顔写真）
 10:05～10:15 開会行事（主催者あいさつ、来賓あいさつ、日程説明）
 10:15～11:35 パネルディスカッション

「コロナ禍での活動・事業運営をどうするか」

①導入提起

古賀市の各種活動の現状と課題（8分）

②令和2・3年度の状況（《3分発表+2分討議》×3人=15分）

③周囲の反応（《3分発表+2分討議》×3人=15分）

④フロア交流（20分）

⑤今後に向けて（4分×3人=12分）

⑥まとめ（4分）

74分

- 11:35～11:45 閉会行事（アンケート記入、主催者あいさつ）

●パネリスト4名

- 10:00～10:05 オープニング映像（笑顔写真）
 10:05～10:15 開会行事（主催者あいさつ、来賓あいさつ、日程説明）
 10:15～11:35 パネルディスカッション

「コロナ禍での活動・事業運営をどうするか」

①導入提起

古賀市の各種活動の現状と課題（8分）

②令和2・3年度の状況（《2分発表+2分討議》×4人=16分）

③周囲の反応（《2分発表+2分討議》×4人=16分）

④フロア交流（15分）

⑤今後に向けて（4分×4人=16分）

⑥まとめ（4分）

75分

- 11:35～11:45 閉会行事（アンケート記入、主催者あいさつ）

パネルディスカッションお題

1. コロナ禍での活動・事業の現状

- (例) ・主催者として活動・事業の中止・実施の現状と判断への思い
- ・実施した活動と中止・休止した活動や理由について
 - ・なぜできなかったのか、また、できた工夫点。なぜ続行しようとしたか
 - ・実施した活動・事業の背景、工夫点
 - ・コロナ禍の活動の現状と工夫

2. コロナ禍での活動に対する周囲の反応

- (例) ・子どもたちや保護者の変化
- ・参加青少年や区民などの声
- (事業の中止・実施に対する賛成・反対の生の声)

3. 今後に向けて (コロナ禍が落ち着いたとき、これまでの事活動をどうするか)

●活動・事業の必要性 (周囲の反応も含め、主催者としての考え)

- (例) ・よりよい社会をつくりつづける (取り組む) のは、どうしてか
- ・活動自体の楽しさ・面白味とは
 - ・活動を通じて目指していること
 - ・息の長い活動になるためのポイント
 - ・コロナ禍において、市民健康スポーツの日のような大きなイベントを開催する意義と開催するための工夫

●活動・事業の継続性 (2年の空白をどう補うか、今ある期待と不安)

- (例) ・大人と子どもが力を合わせて取り組む機会をどう増やせるか
- ・コロナ禍で大切な人と人とのつながりにおいて何を大切にしていけるか
 - ・古賀市民の「つながる力」「なかま力」を強める為に今後必要と考える事
 - ・コロナ禍で子ども達に何を伝えていくか
 - ・コロナ禍で子ども達は何を求めているか?

●活動・事業の発展性 (今考えられる実施上の工夫点)

現活動・事業に加え、新たな活動・事業の模索・方向性

- (例) ・コロナ禍の影響を受けての活動の変化
- (形式の変更・内容の見直し・進化させたことなど)
- ・それぞれの活動で、コロナ禍で再認識した「大切な事」や考えさせられた事
 - ・コロナ禍の中で見つかった新たな課題